

船舶事故調査報告書

平成31年4月17日
運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故種類	浸水
発生日時	不明（平成30年10月18日 19時00分ごろ～19日 07時25分ごろの間）
発生場所	沖縄県宮古島市荷川取漁港 平良港荷川取沖防波堤灯台から真方位062°340m付近 （概位 北緯24°49.2′ 東経125°16.8′）
事故の概要	漁船第三白龍 ^{はくりゅう} は、無人で岸壁に係留中、機関室に浸水した。
事故調査の経過	平成30年10月24日、主管調査官（那覇事務所）を指名 原因関係者から意見聴取実施済
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等	漁船 第三白龍、4.9トン ON3-510075（漁船登録番号）、個人所有 第294-20906号（船舶検査済票の番号）
乗組員等に関する情報	船長、一級小型・特殊・特定
負傷者	なし
損傷	主機等に濡損
気象・海象	気象：晴れのち曇り、風向 北北東～北東、風力 3～4 海象：海上 平穏
事故の経過	本船は、無人で係留中、平成30年10月18日19時00分ごろ、僚船の船長が本船の近くを訪れたとき、船体に異状が認められなかった。 本船の所属漁業協同組合の担当者は、19日07時25分ごろ、本船が右舷を下にして横倒しとなっている状態を認めた。 機関整備業者は、本事故後、主機冷却海水系統内の継手に接続されていたフレキシブルホースに取り付けられたホースバンドが緩んだ状態であり、同ホースと同継手が密着しておらず、抵抗なく外れたことを認めた。
分析	本船は、無人で岸壁に係留中、平成30年10月18日19時00分ごろ異状が認められておらず、19日07時25分ごろ横倒しとなっている状態が認められたことから、この間において、機関室に浸水したものと考えられる。 本船は、主機冷却海水系統内のホースバンドが緩んで継手とフレキシブルホースとの接続部から海水が機関室に流入した可能性があると考えられるが、ホースバンドが緩んだ状況を明らかにすることはできなかった。
原因	本事故は、本船が、無人で岸壁に係留中、機関室に浸水したものと考えられる。

再発防止策	<p>今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none">・ホースバンドは、適宜取付け状況を点検し、必要に応じて増し締め等を行うこと。
--------------	--